受賞作品（50音順）

大賞

01 岡崎信用金庫 城下町支店［岡崎市上六名］
02 アネシス茶屋ヶ坂［名古屋市千種区赤坂町］
03 有松再生プロジェクト［名古屋市緑区有松］
04 一宮市立市民病院新病棟［一宮市文京］
05 かさでらのまちビル［名古屋市南区前浜通七丁目］
06 大泉寺の家［春日井市大泉寺町］
07 ニシヤマナガヤ［名古屋市名東区西山本通］

良好なまちづくりを進めていくためには、建築物及びまちなみが地域環境の形成に積極的に関わり、一定の社会的役割を果たしていくことが重要であるという認識の下、募集条件に適合しているもののうち、良好なまちなみ景観の形成や潤いのあるまちづくりに寄与する等、良好な地域環境の形成に貢献していると認められる建築物又はまちなみで、次の基準のいずれかに適合し、かつ社会的貢献度の高いものを選考する。

選考基準

1 地域における新しい建築文化の創造に寄与しているもの。（以下例示）

- 新しいまちなみの形成を先導し、モデルとなるもの。
- デザインに優れ、地域環境の形成又は新しい地域環境の創造に寄与しているもの。
- 周囲への配慮がなされ、地域の魅力を高めているもの。

2 地域のまちなみに調和し、魅力的な景観の形成に寄与しているもの。（以下例示）

- 地域の風土を生かし、地域文化の継承に寄与しているもの。
- まちなみに調和し、地域の特色ある景観を創造しているもの。
- 建築協定等の住民の主体的な活動や総合的な計画等により、まちなみ景観が形成されているもの。

3 魅力と潤いのある空間の創造に寄与しているもの。（以下例示）

- 緑化、せせらぎ等の、地域に魅力と潤いを与える空間を創出しているもの。
- 通り抜け空間や開放ギャラリー等の、地域コミュニティの形成に寄与しているもの。
- 地区計画等の詳細な整備計画や住民活動等により、良好な地域整備が図られているもの。

4 その他、本賞の趣旨に適合し、地域に貢献しているもの。

愛知県

選考経過

推薦・応募対象	愛知県内で、平成27年4月1日から令和2年8月20日までに建築又は改修等された建築物やまちなみで、選考基準のいずれかに該当するもの。
推薦・応募期間	令和2年7月1日から令和2年8月20日まで
推薦・応募総数	66作品
第1回選考委員会	令和2年8月27日 1次選考を行い、22作品を二次選考対象とした
第2回選考委員会	令和2年10月26日 2次選考を行い、7作品を選定
表彰式	令和3年1月27日

選考委員（順不同／敬称略／★は選考委員長）

★ 武藤 隆	大同大学 教授
谷田 真	名城大学 准教授
溝口 周子	名古屋造形大学 准教授
太幡 英亮	名古屋大学大学院 准教授
向口 武志	名古屋市立大学大学院 准教授
森 真弓	愛知県立芸術大学 准教授
柳澤 講次	公益社団法人愛知建築士会 会長
松岡 由紀夫	公益社団法人愛知県建築士事務所協会 会長
澤村 喜久夫	公益社団法人日本建築家協会東海支部愛知地域会 地域会長
砂原 和幸	愛知県 建築局長
中川 喜仁	愛知県 都市整備局長

主催	愛知県
後援	愛知県市長会 愛知県町村会 愛知県商工会議所連合会 中部経済同友会 愛知県都市計画協会 中部デザイン協会
協賛	（公社）愛知建築士会 （公社）愛知県建築士事務所協会 （公社）日本建築家協会東海支部愛知地域会 （一社）愛知県建設業協会 （一財）東海建築文化センター 愛知県建築技術研究会

ART DIRECTION+DESIGN 高柳 新・田中 晋一（CAMP inc.）

愛知まちなみ建築賞について

愛知県知事
大村秀章
| Hideaki Omura

愛知県では、魅力的な地域づくりには良好な景観形成が必要と考え、平成5年度に「愛知まちなみ建築賞」を創設しました。本賞は、地域における新しい建築文化の創造に寄与しているものや、地域のまちなみに調和し魅力的な景観の形成に寄与しているものなど、社会的貢献度の高い建築物やまちなみを表彰するもので、魅力ある地域環境の形成を図ることを目的としております。

今回は66作品の応募をいただきました。これらの作品の中から、選考委員会で厳正かつ公平な審査を行い、7作品が受賞し、うち1作品が「愛知まちなみ建築賞大賞」に選出されました。

今回の受賞作品は、閉鎖的になりがちな用途の建築物を透明性が高くまちに開かれた印象としたもの、共同住宅の構造・内外装を木造化・木質化し木の温もりの良さを感じさせるもの、伝統的な意匠を守ることにより新築でありながら旧街道の古いまちなみに溶け込んでいるもの、建物周囲に緑化バルコニーを設置し隣接する公園の緑と一体感を持たせたもの、簡易な手法による商業ビルの改修でありながらまちの雰囲気を好転させているもの、建物と敷地内の緑化をうまくデザインし緑豊かな周辺環境に馴染ませたもの、既存の店舗を魅力的に改修することにより商店街全体の活性化に貢献しているものなど、いずれも個性豊かで、また地域の魅力アップに貢献している作品ばかりでした。これらの受賞作品がこれからも多くの人々に愛され、また地域の魅力ある景観づくりに寄与していくことを期待しています。

最後になりますが、広くご関心を寄せていただいた県民の皆様をはじめ、熱心に審査していただいた選考委員の皆様、温かいご支援をいただきました後援・協賛団体の方々へ、深く感謝申し上げます。今後とも県民の皆様と連携して魅力と潤いのある地域づくりに取り組んでまいりますので、引き続きご理解とご支援をお願い申し上げます。

受賞作品（50音順）

大賞

01 **岡崎信用金庫 城下町支店** ［岡崎市上六名］
02 **アネシス茶屋ヶ坂** ［名古屋市千種区赤坂町］
03 **有松再生プロジェクト** ［名古屋市緑区有松］
04 **一宮市立市民病院新病棟** ［一宮市文京］
05 **かさでらのまちビル** ［名古屋市南区前浜通七丁目］
06 **大泉寺の家** ［春日井市大泉寺町］
07 **ニシヤマナガヤ** ［名古屋市名東区西山本通］

練り込み技法による記念銘板
作／陶芸家 水野教雄

まちなみ建築賞総評

大同大学教授
武藤 隆
| Takashi Muto

平成5年から始まった「愛知まちなみ建築賞」は、今年で28回目を数える。

今年度は、県内各地から66作品の応募があった。地域ごとでは、名古屋市が22点、尾張地域18点、西三河地域17点、東三河地域9点となっており、昨年度と比べ三河地区からの応募が増えた。1次選考では、この中から22点を選考したが、このうち愛知県の「人にやさしい街づくりの推進に関する条例」に適合しないもの3点を除外して、19作品を2次選考の対象とした。10月26日に行われた2次選考では、作品ごとの詳細資料・図面ならびに現地撮影した映像資料などを用いて選考委員による討議を行い、7作品を選定した。

受賞した個々の作品についての詳細は各委員の講評をお読みいただきたいが、今回の選考全体での特徴を記したい。大規模な作品の応募が少なくなり、比較的小規模の作品が多かったことは昨年度と同様で、ここ数年の傾向でもある増築やリノベーションなど、「再生」に関わるものが多く残ることとなったが、その一方で、小さくても力強く、未来に対して希望を与えてくれる新築の作品が残った。

アーケードのあるさびれた商店街の一店舗の改修である「ニシヤマナガヤ」と駅前商店街の雑居ビルの改修である「かさでらのまちビル」は、いずれも規模的にはささやかなリノベーションだが、それがきっかけでまちそのものが大きく「再生」していく可能性のある空間の提案である。前者は開放的なファサードからアーケード商店街へと効果的な滲み出しを産んでおり、後者は地域の商店街のこれからのあり方の核となり始めているようにみえる。一方「有松再生プロジェクト」は、「再生」とあるものの実際は新築で、有松のまちなみに対して、既存の建物を保存したもの以上に、忠実に「再生」したようにみえる。継承すべき景観やまちなみと、現代ならではの技術とを融合させ、新築でありながらあたかも「再生」であるかのように思わせる力作である。「一宮市立市民病院新病棟」は、隣接する既存の市民病院に対する病棟の増築である。総合設計制度を巧みに使い、公園と公開空地を一体化させるとともに、それらと連続するような四周の縁側空間が病室からの眺望にも寄与しており、病院と公園とを有機的に連続させている点が評価された。

その一方で、郊外のゆったりした敷地に建つ「大泉寺の家」は、新築でありながらすでにその風景に溶け込んでいるように見える造園計画に特色がある。建築と造園に主従を置かず一体的にそして巧みに計画されて生まれたたたずまいには感嘆させられる。大手ゼネコンの社宅である「アネシス茶屋ヶ坂」は、この地域での木質ハイブリッド構造としてつくられた最初の集合住宅でもある。コンクリートと木材とが、内外ともにコントラストをもって使い分けられていることで、その先駆けとして今後増加することが予想される公共建築物の木質化・木材利用におけるまちなみへの寄与や調和のあり方を提示している。

大賞となった「岡崎信用金庫 城下町支店」は、その機能を優先するがあまり、ともすれば閉鎖的な空間になりがちな金融店舗の支店を、地域貢献の思いで、一切裏がなく、四周を開放的に作られたその空間は、むしろ地方自治体が公共事業として目指すべき公共空間にすらみえる。この地域でも、昨今のPFI事業やP-PFIなどで、地方自治体が単に経済的な視点からの判断で民間にその事業を委ね、受託者が利己的に計画するがあまり、地域の歴史や文化、景観やまちなみをないがしろにしてしまう事例が散見される時代において、地域に豊かな景観やまちなみを生み、次世代に引き継ごうとする発注者の見識を高く評価したい。また、設計者もその意を汲んで、誠実に未来に向けた空間を創り出しており、大賞にふさわしい作品となっている。

大賞

岡崎信用金庫 城下町支店

おかざきしんようきんこ　じょうかまちしてん

岡崎市上六名

地域に開放された空間性、三差路の角地に相応しい象徴性、銀行店舗のあり方を再考することによって生み出されたこれらの特質をもつ本建築は、まちなみの創造に寄与する優れた建築であるとして高く評価された。本建築の設計の要は施設中央にバックスペースをもうけ、その外周を客用スペースにした発想の転換にある。セキュリティの高いバックスペースが必要であることから自閉的になりがちな銀行店舗に対して、バックスペースを内包した本建築は八方をガラス貼りにすることが可能であり、全周に対して見通しのよい内部空間を獲得した。その特性はランドスケープデザインによって補完されており、建物外周に沿って設けられた散策路や敷地境界の緩やかさは人々の往来の自由度を高めている。バックスペースを内包した恩恵は建物のランドマークとしての資質を高めることにも寄与している。本建築がその主旨に「街をやさしく灯す行灯」を目指したと謳うように、夜間には地域の木材をつかった骨組みが内部空間と共に照らし出され、柔らかな明かりが街角を彩る。こうした演出はシャッターで閉ざさざるを得ない一般店舗では難しいものであり、今後のロードサイド建築の可能性を示唆するものとして評価することができる。

●向口 武志 Takeshi Mukaiguchi

建築主	岡崎信用金庫
設計者	株式会社 日建設計（設計）／ 株式会社 コンフォートメディア（コンサルティング）
施工者	小原建設 株式会社
概　要	主要用途　金融機関店舗
	構　　造　鉄骨造
	階　　数　地上2階
	敷地面積　1,758.46㎡
	建築面積　656.45㎡
	延床面積　864.56㎡

1,2,3,4,5 photo/鈴木 文人［株式会社 鈴木文人写真事務所］（2017）

01

アネシス茶屋ヶ坂

あねしすちゃやがさか

名古屋市千種区赤坂町

1

建築主	清水建設株式会社 名古屋支店
設計者	清水建設株式会社 名古屋支店 一級建築士事務所
施工者	清水建設株式会社 名古屋支店
概　要	主要用途　共同住宅
	構　　造　木造+鉄筋コンクリート造のハイブリッド構造
	階　　数　地下1階、地上4階
	敷地面積　1,864.17㎡
	建築面積　847.57㎡
	延床面積　3,211.42㎡

この共同住宅は、名古屋市千種区北部の住宅街に位置し、市営地下鉄駅など公共交通機関に近く、南東側には緑豊かな公園があるなど、住環境としてたいへん恵まれた地域に建てられている。

木質ハイブリッド中層共同住宅のモデルとして、耐震・耐火・防火面等各種実証実験を経て計画・建設されたもので、内装材はもとより、構造部材・外装材においても積極的に木造化・木質化が図られている。木造と鉄筋コンクリート造を組み合わせたハイブリッド構造で、外装材においても軒天井やルーバー、バルコニーの隔て板、外壁など木質部材を多く採用している。

木材を大量に使用することは、森林資源の循環利用を推進し、森林の適正な整備や林業の活性化につながる。これは、地球温暖化防止や持続可能社会の構築に少なからず貢献するもので、たいへん意義のある取組である。

本物件は、画一的な鉄筋コンクリート造の共同住宅が建ち並ぶまちなみが多い中で、木とコンクリートの素材をうまく融合させた先導的な事例であり、そこに住む住民だけでなく、道を行き交う地域の人々に対しても、木の温もりの良さを改めて感じさせるものである。今後、さまざまな特徴を持った木造・木質建築物が生まれ、それぞれの「新しいまちなみ」景観が形成されていくことを期待する。

●砂原 和幸 Kazuyuki Sunahara

02

2

3

1,2,3 photo/新建築社 写真部(2020)

有松再生プロジェクト

ありまつさいせいぷろじぇくと

名古屋市緑区有松

1

有松伝統的建造物群保存地区に新築されたアトリエ併用住宅である。この地区での設計ポイントは、歴史的な景観への応答と、現代的で持続可能な暮らしという二面性を、ひとつの建築でいかに統合していくかにある。このプロジェクトは、外観に集中する多数の制限を真摯に受けとめながら、耐震性や環境に配慮された生活の場を内包させた建築として高く評価された。

東海道沿いの風景にすっかり馴染んでいる外観の設えや色調は、この建築が審議会と協議を重ね、丁寧に設計・施工されたことを体現している。特に、平入の瓦屋根がつくる連続性を継承しながら、隣接する建築よりも更に一段低く抑えられた庇と屋根の高さからは、新たに「まちなみ」へ参加する建築として、徹底して負ける姿勢が感じられた。一方、敷地奥に向かって中庭を介し繋がる母屋は、有松絞りのアトリエでもある東海道側のボリュームがバッファとなり、穏やかな生活の場として守られているようにも感じた。

道路に面したアトリエを通して情報発信を期待しつつも、周囲の環境に対して謙虚に向き合う姿勢は、現代的な「まちなみ」のあり方を考える上でも、示唆に富んだ建築であると言えよう。

●谷田 真 Makoto Tanida

建築主	加藤 彩
設計者	トヨダヤスシ建築設計事務所
施工者	株式会社 戸田工務店
概　要	主要用途　住宅
	構　　造　木造
	階　　数　地上2階
	敷地面積　239.82㎡
	建築面積　147.32㎡
	延床面積　207.50㎡

03

2

3

1,2,3 photo/車田 保[車田写真事務所](2020)

一宮市立市民病院新病棟

一宮市文京

いちのみやしりつしみんびょういんしんびょうとう

1

建築主	一宮市
設計者	株式会社 久米設計 名古屋支社
施工者	佐藤工業・榊原建設・昭和土建 特定建設工事共同企業体
概　要	主要用途　病院
	構　　造　鉄骨造 （コンクリート充填鋼管造） 一部鉄骨鉄筋コンクリート造
	階　　数　地下1階、地上6階
	敷地面積　21,025.26㎡
	建築面積　1,855.95㎡
	延床面積　8,858.87㎡

運動公園として利用されている九品地公園の北に位置するこの病院は、周辺に住宅、小中学校などの文教施設が集まり、緑豊かな環境にある。新病棟は既存病院の南側に建ち、白色のバルコニーとその上に顔を出す植物の緑、勾配を付けた庇が外観を特徴づけている。総合設計制度を適用することにより樹木と散策路による公開空地を整備し、隣接公園と連続した豊かな緑化空間が良好な景観を形成している。

建物周囲に巡らされたバルコニーには緑化プランターを並べ、木製デッキを敷き、窓の上部には日射を遮るアルミ製の庇を取付けた“縁側”空間が設けられている。この各階の縁側＝緑化バルコニーは周りの自然環境と立体的に連続し、公開空地をより豊かな空間にしている。また病室においては窓台を低く抑え、大きな窓の外につながる縁側空間がその先の公園の景色とともに治療・療養環境に取込まれている。

公開空地や緑化バルコニーは総合設計制度の緑化率に算入しており、恒久的に緑の環境を維持する必要がある。樹木の成長に合わせた適切な維持管理がなされ、この建物が時間の経過とともにさらに周辺の景観と一体的になることを楽しみにしている。

●澤村 喜久夫 Kikuo Sawamura

2

3

1,2,3 photo/林 広明［ココロプロデュース］（2019）

04

かさでらのまちビル

名古屋市南区前浜通七丁目

かさでらのまちびる

1

本笠寺の駅前の小さなビルのリノベーションである。しかも、非常に質素な素材で、かなりローコストに、極めて少ない手数での仕事だ。したがって現地を見ると、このビルの歴史を感じさせる積年のキズや汚れ・錆びもそのまま残りディテールに荒さも見える。この事は、建築の評価として減点なのか。それとも、こうした街の暮らしの再生を見据えた、お金をかけない、肩の力の抜けた、そして時代と場所と庶民感覚にフィットした再生こそが評価されるべきか。

ビフォー・アフターの写真を見ると、明らかに街の雰囲気が好転している。透過性のあるマッスとして屋外鉄骨階段をメッシュで覆うという小さな操作が、殺風景な階段を「階段空間」とでも呼びたくなる中間領域に転換させ、場の雰囲気をもたらしている。さらにこのメッシュのマッスが、建ち並ぶ低層ビルの形態に連続感をもたらしているのである。

このビルの半地下には、地域の方々が交代で得意料理を振る舞う「まち食堂」があり、お母さんと呼びたくなるシェフが得意料理を安価に提供し客と会話している。こうしたプログラムと建築のデザインは一体であり、設計者も自らの「まち」を作るメンバーの一人として働いたに違いない。

●太幡 英亮 Eisuke Tabata

建築主	青山 知弘
設計者	宮本久美子建築設計事務所
施工者	誠和建設株式会社（1期工事）／ 株式会社グッドウェーブ（2期工事）
概　要	主要用途　店舗 一部住宅（民泊）
	構　　造　鉄骨造 一部鉄筋コンクリート造
	階　　数　地下1階、地上3階
	敷地面積　78.75㎡
	建築面積　60.09㎡
	延床面積　207.93㎡

2

3

1,2,3 photo/とまつ まこと（2020）

05

大泉寺の家

だいせんじのいえ

春日井市大泉寺町

1 photo/Hiroshi Tanigawa［ToLoLo studio］(2020)

建築主　箕輪 敏行
設計者　みのわ建築設計工房
施工者　有限会社 カワイ建築（建築）／
　　荻野寿也景観設計（造園）
概　要　主要用途　専用住宅
　　構　　造　木造
　　階　　数　地上2階
　　敷地面積　443.56㎡
　　建築面積　105.90㎡
　　延床面積　176.96㎡

本物件は、幹線道路から少し離れた、緑豊かな小高い土地にある二世帯住宅である。敷地は、表側は道路を挟んで小学校校庭に、裏側はゴルフ練習場に面している。

前面道路と建築の間にある庭は、周辺環境に馴染むように緑で構成されている。隣地の生け垣や既存の樹木を活かし、また小学校と同じサクラを配置することで、周囲と呼応させた。建築の外壁は黒の杉板でスッキリと仕上げられ、木立の背景となり影のように佇む。切り取られて浮かんだように明るく見える窓は、高木によって周囲から軽く遮られ、そこから暮らしの気配がとてもいい塩梅で滲み出す。庭の中に作られたテーブル、敷地の縁に設置されたベンチや塀のない境界は、内と外とのさりげないコミュニケーションを生む仕掛けとなっている。

この風景に積極的に溶け込み、少しだけ閉じながら開いている加減が、とても心地よく感じられる。ここに住まう人は、木々の色づきと共に隙間から見える人々の営みに触れ、まちの息遣いを感じながら生活しているのだろう。建築と外部空間とまちの関わり合いが丁寧に設計され、その土地らしさを育もうとする強い意志が伝わってくる作品である。　●森 真弓 Mayumi Mori

06

2,3 photo/箕輪 裕一郎［みのわ建築設計工房］(2020)

ニシヤマナガヤ

にしやまながや

名古屋市名東区西山本通

1

建築主　植村 康平
設計者　植村康平建築設計事務所
施工者　誠和建設株式会社
概　要　主要用途　複合施設
　　構　　造　鉄筋コンクリート造
　　階　　数　地上2階
　　敷地面積　ー
　　建築面積　70.61㎡
　　延床面積　141.22㎡

まちなかの商店街に空き店舗が目立つようになって久しいが、近年地方都市において“シャッター商店街”の復活を目指す取り組みが少しずつ増えて来ている。地域との結びつきという重要なポテンシャルを持つ商店街は、それまでの固定客であった高齢者層だけでなく、若者や家族層も取り込む新たな仕掛けづくりに挑戦している。

空き店舗を商店街の「街のリビング」として位置づけ、新たなコミュニケーションの発生を狙うこのニシヤマナガヤもそのひとつである。

アーケードに沿って商店街を歩くと、内部の見えない店舗が多い中、少し遠くからでも歩道に光と緑の溢れる店舗が見えて来る。このニシヤマナガヤの1階には小さな3つの店が設置されており、ファサードの開放的なガラス扉から見える内部空間もまた街の一部となっているようだ。店の一つである花屋が表に出す植物は、設計者自身の意図としてこの店舗のファサードデザインの一部であること、また植物だけでなく既存を意識したロゴサイン等の建築周辺のデザインも寂れた商店街のまちなみに潤いを与えていることを考えると、植物等を含めた「建築」が街の景観形成に十分寄与しているといえる。

このニシヤマナガヤではアーケード軒下の歩道空間を利用した演奏会等のイベントも行われ、徐々に若者が戻りつつある。商店街の雰囲気が変わり空き店舗も再開されるという街に良い影響を与えていることは高く評価される。

●溝口 周子 Shuko Mizoguchi

07

1,2,3 photo/ToLoLo studio(2020)